

文芸・エッセイご担当者様へ

新刊
案内

『TOKYO STORY 凸凹』

(東京ストーリーデコボコ)

遠くなった戦後 昭和世代に贈る！

戦争を知らない子供達はビートルズで育ち
高度成長を走り抜けた団塊世代。
そんな彼らがシニアとなって感じる今を
共感をこめて綴ったどの頁からも気分次第で
読み切れるイラストも楽しいエッセイ集！



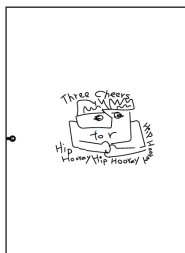
著者紹介

京都市出身、大学で建築を学び新幹線御召列車等の空間デザイン、
テキスタイルデザイン等を経てデザインスタジオ・アップ設立。
生駒山宝山寺信徒会館和光殿レリーフ作成。BMG ビクター (Om-label)、
京浜急行 (カルチャーステーション) ログデザイン。ルシアン・フォンセル (Paris)
ロゴ、空間デザイン。ネスレ DIET-ICE (Australia) パッケージデザイン。
西国分寺、堀之内駅前、多摩センターの都市計画デザイン。
花の万博ポスターデザイン。レインボーブリッジ開通ポスターデザイン。
国連平和賞受賞オルケスタ・デ・ラ・ルスのデザイン担当。
善光寺上人第 120 世追悼書装丁。102 アイスcreamカフェ (USA)
パッケージ、空間デザインを担当する。



ポイジャー一号は飛んでいる、確実に。
最も遠い星間空間を四十年以上かけて今も・・・
「遠くに来たな」「歳を取ったな」と呟いても誰もいない空間で
「寂しさをどうして断ち切るの」と聞きたくても夜空を仰いだ。
月だけが大きく見えて気が変わり
「どうしてそんなに明るく楽しいの」と聞いてみた。
答えはしないが分かった気にさせる「お月様ですごいね！」
酔っぱらいの傍らでコオロギが答えた、都会の小さな公園。
「君は公園の果てを目指して殊をされたかい？」ポイジャーのように
俺も冒険はしたかったけど、
たぎる心を置き去りにして無難にここまで来た。
今からだってあの明るい月にも行ってみよう「行けるかな」
「歳を積み重ねボッカリ空いた心に」
コオロギは答えず季節を遡って鳴いていた。

見知った人を見かけた病院のロビー、声はかけなかった。
奥さんに腕を引かれて元氣だったあの人
「俺もあんなるのかな」と頭をかすめる
変えられないものが順番に確実にやってくる。
見渡すと手を引かれた自分が歩いて来て
「すみません」と小さい声で会釈した。黙って見送り我に帰ると
隣で妻が本を読んでいる、何事も無かった様に
遠いと思っていたものが実は近いと知る時だった。
帰り道「幸せかい」と聞きたかったが他愛もない話しか出来なかった
いつも言ひ出せない昭和の男「もう時間がないよ」と高層ビルが告げている
「分かってるよ」と奇立つ心も昭和の男、令和の街角は似合わないが
知ろうとする心より信じ合う心と気づかされ
「聞くよりもね」と小声で返し妻の後を遡って行く。



11/23
発売

番線印	注文カード	
	注文数	UP BOOKS (アップブックス) 〒105-0022 東京都港区海岸 1-1-1-1519 TEL:03-6403-5365 Mail:info@up-books.com
ご担当	様	JRC 経由で全ての取次店へ出荷可能 返品は長期に承ります (返品条件付き注文扱い)
	冊	書籍判型: A5 変形 148×200 mm 本文 144 ページ 定価 (本体 1200 円 + 税) ISBN978-4-910418-00-1
		TOKYO STORY 凸凹 藤村 拓也 文 / 画 / 写真
		UP BOOKS ご注意は、JRC へ FAX.03-3294-2177

新刊委託を致しませんので、注文扱い (返品条件付) で出荷致します。店頭販売をよろしくお願ひ申し上げます。